

## 中央大学 2026 年度一般選抜【出題の意図】

試験日：2026 年 2 月 14 日

学部：経済学部 I

科目：国語

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

### 問一

第一問は、現代文の論理的文章についての問題です。今回は高根正昭の文章を題材としました。現実世界をどのように認識し、そこから概念や指標を形成していくのかという、社会科学の基礎的な方法論について論じた内容です。筆者の議論の枠組みを整理して読解できるかを重視しました。さらに、漢字の基本的な知識を問う問題も設けました。

### 問二

現代文による問題です。修辞学と歴史哲学の関係を扱った富山太佳夫の論考の中から、カール・ヘンペル、ルイス・ミンク、そしてヘイドン・ホワイトという三人の学者が歴史事象の理解の仕方について三者三様のアプローチを行なっていることを比較した箇所を抜き出して題材としました。問題文の記述から、三者それぞれの考え方の違いを論理的に正しく区別して読み取ることができているかを問いました。

### 問三

第三問は、古文についての問題です。室町時代初期に成立した軍記物語である『曾我物語』を題材としました。古文の基礎的な語彙・文法の理解をふまえ、父の仇討ちを考える曾我兄弟やそれをいさめる兄弟の母の心情、義父である曾我殿と鎌倉殿の関係などが、文章に沿って理解できたかを問いました。